

## 定例部長会議開催結果 概要

●日 時	令和 7 年 10 月 7 日（火）午前 10 時から午前 10 時 52 分まで			
●場 所	3 A 会議室			
●出席者	■は出席（代理出席は○）			
	■ 市長	■ 石原副市長	■ 高橋副市長	■ 教育長
	■ 政策部長	■ 総務部長	■ 税務担当部長	○ くらし安心部長
	■ 文化スポーツ 部長	■ 福祉部長	■ こども健康部長	■ 環境産業部長
	はだの魅力づく り担当部長	■ 都市部長	■ 建設部長	■ 上下水道局長
	■ 教育部長	■ 消防長		
進行：副市長 事務局：総合政策課長、総合政策課課長代理（政策調整担当）、担当 陪席：秘書課長				
●会 議	1 市長あいさつ 2 報告事項 (1) 「元気溢れるふるさと秦野実現のための税収確保に関する取組指針」の策定につ いて [市民税課] (2) 秦野市多世代交流施設整備基本構想（案）について [秦野駅北口にぎわい創造担当] (3) 土地利用委員会調整部会の審議案件について [開発指導課] 3 その他			
●会議概要	1 市長あいさつ ・先月 27 日、28 日に開催した「たばこ祭」について、両日とも天候に恵まれ、2 日間で 36 万 9 千人に会場していただいた。 ・たばこ音頭パレードなどの伝統行事に加え、市制施行 70 周年を記念した特別企画なども実施することができ、市民が主役となり、「地元で盛り上げる祭り」として開催できたのではないかと思います。 ・次に、「9 月定例会」について、先月 30 日に秦野市議会、昨日、二市組合議会が、それぞれ終了した。 ・今議会では、決算の認定のほか、提出した全ての議案を原案どおり議決していただいた。 ・決算総括や決算委員会、一般質問で質疑のあった案件については、各部局でしっかりと議論した上で、優先順位を考慮し、今後の施策の推進、そして、令和 8 年度予算につなげてもらいたい。 ・次に、「来年度の予算編成」について、明後日 9 日の予算編成事務説明会で、財政課から予算編成の方向性をはじめとした説明があり、来年度の予算編成事務が始まる。 ・昨日の政策会議で、予算編成取扱要領を決定したところだが、総合計画の推進はもちろんのこと、これまで優先的に取り組んできた「表丹沢の魅力づくり」や「小田急線 4 駅周辺のにぎわい創造」、「女性とこどもが住みやすいまちづくり」、「デジタル化」を推進する施策などは、特に積極的に進めてもらいたい。			

- ・また、この予算編成のタイミングは、様々な事業を見直す機会でもある。
- ・行政サービスの質を高めるため、これまでの取組を分析し、部局内・課内でよく議論し、見直しを徹底した上で、予算編成に取り組んでもらいたい。
- ・部局長には、強いリーダーシップのもと、職員の意識改革を促しながら、適切に対応してもらいたい。
- ・次に、市制施行 70 周年記念の関係として、来月 1 日に「報徳サミット」、3 日に「市民の日」と「記念式典」、8 日に「名水サミット」と、大きなイベントが予定されている。
- ・担当部局における万全の準備をお願いするとともに、こうした行事を契機に、市民の皆様へ「ふるさと秦野」への誇りと愛着をより一層深めていただけるよう、職員一丸となって取り組んでいきたい。
- ・最後に、朝晩を中心にだいぶ涼しくなってきた。日ごとや昼夜の寒暖差が大きく、体調を崩しやすい時期となるため、体調管理には十分留意して、職務に励んでもらいたい。

## 2 報告事項

- (1) 「元気溢れるふるさと秦野実現のための税収確保に関する取組指針」  
の策定について [市民税課]

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】

問．それぞれの部署で事業を進めるに当たり、税収効果などを予測しながら進めていく必要があると思うが、途中の段階からアドバイスをしてもらうなど、参画してもらうことはできるのか。

答．資料の 8 ページにある①に該当する話かと思うが、お互いの立場でそれぞれ分析したものを連携しながら、進めていきたいと考えている。

問．指針という形で策定されたが、上位計画や他の計画との整合を図る中でどのような位置付けとして捉えれば良いのか。

答．各担当課で、税収確保という視点を持っていただきたいと思い、策定したものであるため、当然上位計画などが優先されていくものと考えている。

意見．どういった部分で、どう考慮しなければならないのか、そういう位置付けが最終的には必要になるのではないか。

意見．資料の 8 ページにある①において、関係課が「有効性が確認された場合、対策を実施」となっているが、いきなり実施するというよりも有効性が確認されたものについて全庁的な議論を行っていかないと、政策的な整合性が図れないように思う。どのように行うのか、よく検討してもらいたい。

(2) 秦野市多世代交流施設整備基本構想（案）について

[秦野駅北口にぎわい創造担当]

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】

問．先日、県教育委員会から発表された曾屋高校と秦野総合高校の統合による影響はどのようなか。

答．曾屋高校は生徒が 900 人ほどおり、その人数が通らなくなるというのは、施設というよりもまちそのものに対する影響が非常に大きいと考えている。施設については、曾屋高校の生徒のみではなく、市内や近隣自治体に居住する学生が学習スペースとして利用できることを想定しているため、大きな影響ではないと考えている。

問．資料の 7 ページに「文化・生涯学習・市民活動へつながる学びの提供など、文化的な生活の充実に貢献します。」とあるが、この検討に当たり、宮永岳彦記念美術館や市民ギャラリー、図書館の浮世絵ギャラリーなどを施設へ入れる話はあったのか。

答．庁内の意見照会などではそういった話ももらっている。しかし、必要な面積や施設の要件などを考える中で、例えば、諸室の中の壁に展示するなど、そういったことは可能であると考えているが、専用の個室を設けるとなると費用等もかかってくるため、この施設計画を最終的に決定していく中で判断していきたい。

問．多世代交流施設単独では収益性が低いということだが、例えば、コンビニを入れるなどの考えはあるのか。

答．資料の 8 ページに「本事業で想定される事業」として示したとおり、民間施設との複合化などを想定しており、収益性のあるものが施設に入ること否定するものではない。しかし、この施設があることにより、商店など、周辺での土地利用の広がりを作っていきたいため、できれば施設の中には入らない方がよいのではないかと考えている。もちろん、賃料などが入れば運営費に充当することができるため、そうしたことも視野に入れて検討していくが、施設が大きくなればそれだけ建設のコストがかかるということも踏まえ、検討していく。

問．資料の 8 ページにスケジュールが示されているが、P F I や P P P の手法を検討する場合に、かなりタイトなスケジュールであると感じるが、専門の事業者には相談などはしているのか。

答．コンサル事業者には P F I や P P P を検討した場合の事業スケジュールを出してもらっている。P F I に関してはこのスケジュールでは間に合わず、P P P で行う場合もぎりぎりの想定となっているため、今後、事業計画を検討する中でもう少し精度の高いスケジュールを組んでいく。

問．P F I や P P P について、検討しなければならないことになっていると思うが、所管課に相談しているのか。

答．今年度、今回の構想と並行して基本計画の策定を進めている中で、検討の資料づくりも行い、導入の可能性について調査しているところである。

問．ハローワーク本所の入居に当たり、管轄区域が見直される可能性はあるのか。

答．松田のハローワークは、現在、秦野市、南足柄市及び足柄上郡を管轄しているが、管轄区域の変更に関する話は聞いていない。

問．多世代交流施設の近くには、秦野市地域生活支援センター「ぱれっと・はだの」があり、障害者の就労の拠点でもあるため、ハローワークが入居することで連携しやすくなると考えている。現在、障害者の就業面と生活面の一体的な相談・支援を行う就業支援センターは障害保健福祉圏域ごとに1か所という考えの中で設置されており、本市を含む圏域の就業支援センターは平塚市にあるが、ハローワークの管轄区域とずれていることも踏まえ、本市の「ぱれっと・はだの」を就業支援センターとして指定してもらおうよう、働きかけを行っているところである。就業支援センターが、障害保健福祉圏域に一つではなく、ハローワークの管轄区域に一つという考え方へ移れば、指定の可能性が高まるという考え方もあると思っているが、今回の入居で管轄区域が見直され、伊勢原市などが含まれるようになると、こうしたことの後押しになると思う。今後、調整する考えはあるか。

答．今のところ、そういったことは考えていない。

(3) 土地利用委員会調整部会の審議案件について

[開発指導課]

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】なし